

## VI 成果と課題

### 1 成果について

最大の成果は、教師の授業改善の視点が明確になったことである。

#### (1) 教科授業について

- ①「わかる授業」をつくるための様々な指導モデルを理解し、それを状況に応じたハイブリッドな活用ができるようになった。
- ②ペア学習・4人組学習という学習形態からホワイトボードを活用した議論、思考ツールを活用した論点整理ができる学習形態を実践することができた。
- ③「主体的・対話的で深い学び」の実現の手だてとして「ファシリテート」という視点での指導の実践をすることができた。
- ④「わかる」から「できる」に、生徒が学びをアップデートできる手だてを研究することができた。そして、その手だてを「主体的に学習に取り組む態度」としての評価につなげる研究ができた。

#### (2) 特別活動等について

- ①「計画委員会」を基盤にした組織的な学級活動の進め方を理解した。具体的に、計画委員会の運営、計画委員会による学級会の運営を実践することができた。
- ②自治的活動のねらいを理解し、特別活動以外にも実践できることを理解した。

#### (3) アセスメントの意義について

- ①様々な指導や取組の評価も大切であるが、アセスメントの視点をもつことの重要性を全教職員で理解・共有することができた。
- ②指導や取組を受けての生徒の変容について、アセスメントの具体的な手だてを研究し、それを踏まえての現状分析や適切な対応、指導改善に生かすことができた。

#### (4) 生徒について

- ①授業では、ペア学習・4人組学習がスムーズに展開できる域に到達できている。加えて、ホワイトボードを活用した論点整理・議論展開も生徒主体でできるようになった。また、学級活動や生徒会活動においても組織的な議論展開ができるようになった。
- ②課題に対して自分事として考えることができ、学級討議や教科授業の場で主体的な動きや他者との関わりができるようになっていく。また、合意形成や納得解の見だし方を生徒間でできるようになった。

### 2 課題について

今回の研究は、「学びの主体者の育成」である。そのために、私たち教師が「何をしなければいけないか」、「どのようなことができるのか」について研究を重ねてきた。今回、その具体的な手だてを述べてきたわけであるが、全体を通しての生徒の成長や変容を数値で見取くことは行っていない。なぜならば、本研究実践は短期的に成果が出る実践ではないし、それを求めているわけではないからである。このような背景があるわけだが、研究全体に対する客観的数値での評価方法を見いだせなかった点が課題といえる。

### 3 総括

研究主題で“未来の社会をつくる”という言葉掲げた。生徒達が未来の社会をつくるために、「今身に付けなければいけない力は何なのか」という視点を明確にして、研究を進め、教師の教育活動のアップデートを試みた。「温故知新」の故事成語の通り、新しいものばかりを追って、多面的多角的に物事を見ることはできない。そういった意味では、本校の研究は、従来からの教育の流れをしっかりと吟味し、新しい時代が求めるものを絡ませながら、実践し、提言ができたと考えている。